令和５年６月１６日（金）　東奥日報

昼食提供「始めて良かった」

町長が三戸高校視察

三戸

松尾和彦三戸町長は8日、慶長隆光町教育長とともに三戸高校で、県立高校初の町による昼食提供の現場を視察、11びきのねこの絵柄が入ったエプロン姿で配膳し、高校生と一緒に昼食を取り、会話しながら時間を過ごした。

同高では4月から、希望する生徒に町内小中学校の給食と同じメニューを出しており、町は町内の児童生徒合わせ約670食を提供している。高校では78食の提供。

この日のメニューはマーボー豆腐とシラスのたまご寄せ、3色ナムルとご飯、牛乳。エプロン、三角巾姿の松尾町長は、トレーにおかずを盛り付けて生徒たちを迎え、配膳が一段落すると「高校生に提供しているおいしく健康になる食の取り組みを、できるだけ長く続けたい」とあいさつ。生徒たちと同じテーブルに座り、昼食を食べながら会話を楽しんだ。

昼食後、教室に戻る生徒たちに「三戸高校の生徒の皆さんが、給食センターで調理した温かい食事を食べて、将来の目標に向かって充実した高校生活を送ることを願っています」とのメッセージを渡した松尾町長は「生徒たちは明るく、楽しそうに食事を取っていた。学年を超えたコミュニケーションもできており、昼食提供を始めて良かった」などと話した。

（珍田秀樹）

生徒と会話しながら昼食を味わうエプロン姿の松尾町長㊨